企画展　「阿曽藍人　Inner Land 内なる大地へ」

会　　期：2021 年 10 月 1 日（土）～2021 年 10 月 31 日（日）〈27 日間〉
※2021 年 9 月 25 日（土）から 10 月 24 日までの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休館のため、会期を変更して開催した。
会　　場：企画展示室、美術工芸展示室
展示点数：13 点
観 覧 料：無料
入場者数：1,157 人

【内容】

美濃加茂市民ミュージアムでは、開館以来「芸術と自然」をテーマに現代美術家を招き、滞在制作の成果を発表する展覧会やワークショップを開催してきました。昨年開館 20 周年という節目を迎え、今年は地域の作家に焦点を当てます。美濃加茂市内に移住して工房を構える美術家の阿曽藍人（1983 年～）を紹介します。

阿曽は土を素材として用い、屋内外でのインスタレーションを各地で発表してきました。その造形はシンプルで、球や正方形の板など同じ形を幾つも並べ置き、緊張感のある洗練された景観を生み出します。

土は含む水分量の違いにより大きく性質が変わります。作家は「土からやきものになるダイナミックな変容に寄り添い、対話を続けるうちに土が自らを語りだす」と考えます。ひとつひとつに異なる色、質感が宿り、独特の表情を生み出しています。作品が置かれた空間に佇む者の意識は大きな自然、大地へと誘われてゆきます。

本展は森の中に立つ館の環境を生かして、天、地、土、水、木を想起させるような空間構成を試みました。室内に土の柱と球体、木立の中に球体を配置し、野外との相似関係を構築します。作品の一部は当館にある陶芸窯で焼成しました。また会期中には森の敷地で採った土を粘土にして陶板を焼くワークショップも開催しました。

根源的な自然に寄り添いながら、見慣れた景色を美術の力で変えていく阿曽藍人の表現。作品を「経験」するように歩き眺める時間の中で、自分の記憶や心の内に在る「大地」を思い返す。そんな瞬間が訪れることを願い、この展覧会をお届けしました。

【関連事業】

□阿曽藍人　工房見学
10 月 9 日（土）　10:00～12:00
集合場所：エントランスホール
参加者４人

□ワークショップ「文化の森の土で陶板をつくる」
10 月 10 日（日）10:00～16:00
会場：生活体験館「まゆの家」
参加者:7 人

□アーティストトーク（作家による展示解説）
10 月 31 日（日）11:00～12:00
会場：緑のホール、企画展示室・美術工芸展示室
参加者：24 人

【刊行物】
『阿曽藍人　Inner Land　内なる大地へ』記録集　A5 判　18 頁　200 円

【展示品】

no.	作品名	素材	制作年	サイズ
1	Light Field	陶土、布	2021 年	180×1027 cm
2	Trace（植物）	陶土	2014 年	45×45 cm
3	Trace（植物）	陶土	2014 年	45×45 cm
4	Trace（植物）	陶土	2014 年	45×45 cm
5	Landscape（十日町）	陶土、布	2015 年	95×95 cm　95×216 cm
6	土の織物	陶土、布	2020 年	60×60 cm
7	土の織物	陶土、布	2020 年	60×60 cm
8	土の織物	陶土、布	2020 年	60×60 cm
9	土の織物	陶土、布	2020 年	60×60 cm
10	Trace	陶土、布	2018 年	154×154×5 cm
11	Landscape（常滑）	陶土、布	2015 年	138×759 cm
12	Inner Forest	陶土、布	2021 年	サイズ可変
13	土の玉	陶土	2021 年	サイズ可変

【参考】
今回の展覧会は、美濃加茂で制作した新作に旧作を加えて構成した。企画展示室では、正方形の陶板の形から展開する作品を展覧した。ガラスケースには、美濃加茂の工房で作った新作≪Light Field≫（No.1）を展示。2500 枚を超す陶板を焼成し、その中から選んで並べて布に貼り合わせた作品である。続いて 1 枚の陶板に様々な植物を焼き付けたもの、新潟県十日町、愛知県常滑市、美濃地方など各地の土を用いた陶板の作品を展示、作家の制作の歩みとともに、土の個性も感じ取れるような展開となった。

北の森では木立の間に土の玉（No.13）を配置した。No.12 の≪Inner Forest≫は、その球体と柱状という形態の呼応関係を美術工芸展示室で展開しようと試みたものである。作品を構成する陶板と球体は全て文化の森の電気炉で焼成した。陶板は美濃加茂の工房で加工され、展示室で柱状に組み立てられた。

ワークショップは文化の森の赤味のある土を水を混ぜて粘土を作るところから始めた。阿曽氏の陶板の作り方を追体験し、時間をかけて乾燥と焼成まで見守りつつ、森の植物を焼き付ける手法を楽しんだ。最後に壁掛けにできるように仕上げた。

［写真１　No.1 Light Field］

［写真２　No.5 から No.10 の展示空間］

［写真３　No.12　Inner Forest 全景］

［写真４　文化の森の電気炉での焼成］

［写真５　10 月 9 日開催　工房見学］

［写真６　10 月 10 日開催　ワークショップ］

【アンケート結果】　（全 22 枚・複数回答あり）

選択設問から

①　展示を見て今の気分は

・心が安らいだ	12
・心がざわざわした	3
・心が躍った	1
・力強さを感じた	7
・美しいと感じた	11
・驚いた	1
・怖いと感じた	2
・不思議な世界だ	8
・悲しくなった	0
・わけがわからなかった	1
・ずっと見ていたい	5
・見なくても良かった	0
・その他	0
計	51

②　展示を見て思ったこと

・こういう表現があるんだ	10
・作家の発想は豊かだ	7
・とても気になる作品があった	2
・作家のことを知りたくなった	4
・作家の意図するものがほとんどわからない	0
・素材や作り方に興味を持った	14
・特異な空間を楽しめた	16
・自分の考え方には合わないと感じた	1
・自分の固定概念が崩れた	3
・スケール感に圧倒された	4
・その他	0
計	61

③　発想・発展

・日ごろの色々な事を忘れることができた	2
・自然のことを考えた	10
・誰かに話したくなった	6
・時間や歴史について思いをはせた	1
・自分の暮らしについて思いをはせた	1
・作品から何かを連想した	2
・思い出す情景があった	5
・現代美術への関心が高まった	5
・世界の平和を少し考えた	2
・何かを作ったり、表現したくなった	5
・もう一度見たいと思った	3
・作家の他の作品も見たいと思った	6
・その他	0
計	48

自由記述から

・自分も頑張っていこうという活力をもらいました。
・この場所にあった（ふさわしい）作品で、心が落ち着きました。
（別に疲れていませんが）
・大変良い展示と思いました。とてもすばらしいです。
・詳しい解説が書いていないことで、想像力をはたらかせることができました。
・いろいろなアートが見たい。今後も楽しみにしています。
・素晴らしかったです。外の作品も楽しみです。
・とてもよかったです。
・作品を大きく見た時と、近くで見た時に感じることの違いや、部屋によってコンセプトが少しずつかわっていておもしろかった。
・工房見学をさせて頂き、作品のたたずまいが、こんなところでできていることに感動しました。
・取り出した作品の変化も楽しめよかったと思います。ありがとうございました。
・作家さんの人柄が心地よい。もっと作品を見たくなった。
・なかなか体験できないことができて良かったです。
・阿曽さんの誠実な人柄が作品にも工房見学にも表れていたと思います。また企画してください。
・作家さんの作品への想いもさることながら、実際に制作される工房まで拝見できて素晴らしい時間でした。豊かな気持ちになれました。
・毎年この季節の展示を楽しみにしています。今回も土の素材を感じる美しい空間でよかったです。